

平成28年8月21日(日)

老球の細道260

## トステインクリニック15年連続!

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今年も指導者を対象にしたトステインクリニックが8月13日(土)14日(日)とお盆の真最中に会津バスケットボール協会主催で開催された。15年連続17回目である。県内外から60名以上のコーチが参加してくれた。会津協会主催なのだが、地元のコーチの参加は少なく、会津以外の県内他地区、そして県外からの参加者が多かった。

なぜ15年もこのクリニックは続くのか。それはトステイン・ロイブルコーチの人柄(情熱、謙虚、ユーモア)のみならず、彼自身のバスケットボール理論、ドリルのアイデアが毎年進化し、現在の「世界スタンダード」を示してくれるからである。

彼は現在日本バスケットボール協会のジュニア養成の中心人物として、日本中のコーチに「世界を目指す日本のバスケットボール」の指針を示してくれている。今回のクリニック内容もそれに基づいて行われた。特に、つい先日までU-18のアジア選手権を勝ち抜き、世界選手権の切符を手にしたばかりの後のクリニックだったので注目だった。だから会津地区以外から高い目標を抱くコーチたちがたくさん集まったのだろう。

今回のトピックで特に印象だったのは「世界のトッププレイヤーから学ぶモダンファンダメンタル」という内容だった。トステイン氏はこのトレンドを4つにまとめている。

①ペネトレーション：世界のバスケットはシステムに頼らないで1:1の能力を高めている。特にドライブで突破する能力がすさまじい。彼は「D o m i n a t i n g d r i v e s」と説明し、抜くときの最初の1歩の速さとスタンスの低さ(肩を低く)を強調した。そしてシュートに持っていくときのフィニッシュステップのフットワークバリエーションの必要性も力説した。ユーロステップやギャロップステップ等のことである。

②シュートテクニック：世界のディフェンスはサイズがあり、必ずシュートブロックに跳んでくる。この状態でシュートを打つためには、クイックリリースとハイアーチを正しいフォームでやれなければならない。キャッチしたらボールをすぐにリリースポイントに持ってくるハンドクイックネスの能力が必要である。

③パッシング：ドリブルドライブからのチームオフenseが世界の主流になっている。ドライブからディフェンスを集めてのワンハンドパス、ドライブするためのスペーシング、ドライブに対するカットのタイミングなどバスケットボールIQが要求されていた。

④エモーション(ポジティブな感情)：メンタルのファンダメンタルになる。日本のジュニア世代が最も遅れている部分である。ポジティブな感情を素直に表してコミュニケーションを密にすることは世界の常識である。無声、無表情はコートの中では何の役にも立たないばかりか、相手に自分の無能力、無情熱を知らしめているようなものである。

人間ドック等の定期健康診断で毎年身体の調子をチェックしている。バスケットボールのトレンドは毎年トステインクリニックでチェックしている。今年も世界のバスケットボールの新しいトレンドについて気づきを得ることができた。コーチは常に勉強していないと進化し続ける世界の流れに追いつけない。コーチがガラパゴス化していると、そのコーチに教えを受けるプレイヤーはガラガラパゴス化どころではない。

子どもは親しだい、孫は爺、婆しだい、プレイヤーはコーチしだいである。